

心が傷つくと健康によくない

A broken heart harms your health

情緒的ストレスが特異なタイプの心臓病を引き起こしている。

Jessica Ebert news050207-11/9 February 2005

情緒的外傷によって「心が傷つく」という表現は、思った以上に射っているかもしれない。このほど米国の研究者は、突然の情緒的ストレスによって心臓を「気絶」させてしまうホルモンが分泌され、それによって典型的な心臓発作に似た症状が現れることを明らかにした。

ストレス心筋症（別名「傷心症候群」）に苦しむ人々はまるで心臓発作を起こしたかのようになる。具体的な症状は、胸が痛む、肺に体液がたまる、息切れ、心不全である。この時、心臓が血液を送り出す能力は大きく低下し、心筋は弱っている。ところが、典型的な心臓発作の場合のように心筋梗塞を起こしたわけではない。心臓は死んでいないのだ。

「心臓の組織は生きています。ただ、動いていないだけです」と語るのは、今回の研究のリーダーをつとめたジョーンズホプキンス病院（米国メリーランド州ボルチモア）の Hunter Champion だ。

1999年に Champion と彼の同僚の心臓内科医 Ilan Wittstein は、一部の心臓発作患者に通常とは異なった点があることに気づいた。彼らが特に強い印象を受けたのは、心臓発作を起こす前に最愛の人を失ったり、裁判所に出廷するといった激しい情緒的な出来事を経験した、閉経後の女性患者の検査結果だった。これらの患者は、心電図と心エコーのパターンが独特で、冠動脈疾患がなく、回復も早かった。

1999年11月から2003年9月

の間に、Champion と Wittstein は、19人のストレス心筋症患者の生化学検査データと画像データを集め、7例の典型的な心臓発作患者のデータと比較した。

その結果、ストレス心筋症患者のカテコールアミン類（特にアドレナリン）のホルモンの初期値が典型的な心臓発作患者の2～3倍、健康な人の7～34倍にも達していたことがわかった。

「カテコールアミン値の上昇とストレス心筋症の強い関連性が明らかになったのは、これが初めてです」と Champion は言う。

研究は日本の方が進んでいる

ストレス心筋症は日本では10年前から知られており、「たこつぼ型心筋症」と呼ばれている。気絶した心臓の形が丸底の蛸壺に似ていることが名前の由来だ。

これまでストレス心筋症の知名度は、欧米諸国で相対的に低かったが、Champion のような研究がこの疾患を表面化させる、とミネアポリス心臓研究財団（米国ミネソタ州）の心臓内科医 Barry Maron は言う。Maron は *Circulation* の3月号¹でこの疾患を紹介しており、Champion の研究は *New England Journal of Medicine* 電子版²に掲載されている。

「今後は、医師が患者を検査する際にストレス心筋症と典型的な心臓病とを見分けることが重要になります。ストレス心筋症は、鑑別診断において独自の疾病単位として区別して取

り扱われる必要があります」と Maron は言う。

ストレス心筋症の患者を見分けられれば、「不必要な外科的処置を避けられるかもしれない」と Champion は言う。具体的には除細動器の埋め込み手術のことだ。これに加えて、医師がストレス心筋症の独自の特徴を認識できるようになれば、この疾患の症例記録が増えていく可能性が高い。「今回の研究報告は氷山の一角なのかもしれません。私たちが考えているよりもかなり頻繁に起こっている病気である可能性があるのです (Champion)」

ジョーンズホプキンス病院の研究チームにとって次の段階は、ストレスホルモンが心臓を気絶させるメカニズムを解明することだ。彼らはまた、ストレス心筋症の記録を保存していくシステムを作り、この疾患にかかった患者からの情報を集めることも目指している。これによって、ストレス心筋症に遺伝的素因があるのかどうか、高齢の女性の方がストレス心筋症にかかりやすいのはなぜか、といった点が解明されることを Champion は期待している。 ■

参考文献：

1. Sharkey S., et al. *Circulation* **111**, 472 - 479 (2005).
2. Wittstein I., et al. *N Engl J Med* **352**, (2005).